
正義の味方はどこにいる？

河道 秒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

正義の味方はどこにいる？

【Zコード】

Z4969Y

【作者名】

河道 秒

【あらすじ】

正義の味方になりたい。

鎬木海斗はそう思った。そして彼は、能力を持つ。その力をいかにして使い、いかにして正義の味方にたどり着くかを描いた物語。

キッカケ（前書き）

今回も勢いだけで作りました（笑）。

キッカケ

雨が、降っている。

その雨はどこまでも冷たく、俺の身体から徐々に体温というモノを奪っていく。今日は季節で言つと、初夏のはずなのに、とても寒い。凍えるような寒さで身体が震えていた。

俺は仰向けになつて曇天を見上げていた。どこまでいつてもその空に光は無い。まるで、希望というモノ最初からは無いかのように見える。

一つしかない左腕を使って、よろよろと立ち上がる。その腕もひどく、傷ついていた。

「

誰かが声ならぬ声を出した。しかしそれは何と言つているのか分からず、俺の耳にノイズとして響いた。そして立つて見た光景は地獄だった。

家という家は全て破壊され、その鉄骨がひしゃげ、人の死体は、原形をどどめていなかつた。はじめて感じる、死と血のにおい。生き残つた人間は地を這いずり回り、苦痛に悶え、安樂を求める。

俺はその死に満ちた中で、歩き始める。家族だと友達だとか、そういう理念さえも考えられなかつた。全身を襲う痛みのせいだろうか。それとも、この体温を奪つていく雨のせいだろうか。その二つを考えることだけで精一杯だった。

残骸と死骸だらけの街。そこは確かに以前まで、活気溢れる都市だったはずだ。ビルがあり、住宅があり、人間がいる、普通の場所だつたはずだ。

「.....」

それが今や、焼け野原のような光景に様変わりしている。歩いていると、ガラス片がいくつか刺さる。

「.....ケテ。たす.....て。タスケテ

何かを語つようにも、何かを唱えるようにも聞こえるその音の主は、俺と同じくらいの少年だった。そして彼が発するその音も今はノイズとしてしか聞こえない。

ノイズ。雜音。耳障り。聴覚はそれしか感じていない。

足が疲れる。どのくらい歩いたかは知らないが、けつこう歩いたはずだ。そう思い、俺は足からばたり、と倒れた。

「

徐々に死のにおいが満ちてくる。先ほどより強くなっていた。その匂いを嗅いでいたら、急に吐き気がこみ上げてきて 血を吐いた。

「はあっ、はあっ、はっ……！」

口の中に鉄っぽい味が広がった。不味い。

ああ、寒い。毛布があれば、このまま眠れるのに。いや、いつそこのまま眠つてしまおう。そのほうが楽だ。

田は、自然に閉じられた。これで、楽になれる。。

再び目を覚ました場所は、どこかの病院の中だった。身体を包帯で巻かれ、動きが取りづらい。鈍っていた思考は回復している。腕が動く。両方とも、だ。そして、何よりも温かいことが分かった。

「つ……！？」

俺は、生きていたのだ。否、生きていてしまったのだ。あの腐りきった死の中で生きてしまった。あそこではほとんどの人間が死んだというのに。

「くつ……」

だから、この時に決意したのだ。

この償いのために、人を助けると。自らを危険に晒しても、人を救つてみせると。誰よりも多く救つてみせる。

つまりは、正義の味方に、なるのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4969y/>

正義の味方はどこにいる？

2011年11月17日19時41分発行